



刊本「自然真道」3巻 八戸市立図書館所蔵。序の「確葉門確仙」は神山仙庵、二・三の「確龍堂良中」は安藤昌益のこと。

今年3月、八戸市立図書館で所蔵する刊本「自然真道」3巻が、県文化財である県重宝（書籍、典籍）に指定された。

「自然真道」は江戸時代中期の医師で思想家の安藤昌益（1703～1762）の著書で、昌益思想の成立あるいは発現の書とされる。その内容は、昌益の自然哲学、天地・宇宙論、生物論（主として本草学批

刊本「自然真道」

藤田 俊雄

（青森県文化財保護審議会 副会長）

判）、曆論、人体論（医学書批判）等にわたり、昌益の独創的な「直耕」（自然の循環の中で正しく農耕を行い、生活していくという）概念も述べられており、昌益思想の基礎を知ることができるといえる。

巻一の序文には、「轉（天）下妄失の病苦、非命にして死せる者のために、神を投じて以て自然の真道を見す。」と記している。

八戸藩領内では、1749（寛延2）年に猪が大発生し、農作物を荒らし、餓死者が3000人にも及ぶ大飢饉があった。昌益はこの悲惨な実情を見聞し、思想を深化させていったと考えられている。八戸が「昌益思想誕生の地」と言われる由縁である。

本書は、1973（昭和48）年に南郷村（現、八戸市南郷）島守の村上壽一氏の土蔵から発見された。同家は屋号を松前屋と言いつつ、代々当主は治五平を襲名した。酒造業や金融業を営み、名主を務めた豪農であった。本書は、昌益の弟子の子孫から受け継いだもので、1997（平成9）年に村上家が八戸市立図書館に寄託。翌年に八戸市有形文化財に指定された。2020（令和2）年に同館に寄贈された。

同書は国内に3組しか現存していない。八戸市立図書館所蔵本、慶應義塾大学所蔵本、北野天満宮所蔵本で、3組共に奥付に寶曆三癸酉三月と記し、西暦1753（宝暦3）年の発行。八戸本は江戸の書林松葉

清兵衛と京都の小川屋源兵衛が共同版元となり発行された初版本である。一方、慶應本と北野天満宮本は京都の小川屋源兵衛が出版した後刷り本である。この違いは、初版本の第三巻に収められた「曆道之自然論」が、後刷り本では「国国、自然之氣行論」へ差し替えられている。初版本では、江戸幕府による暦の全国統制と、その暦が地方の生産農民にとって不合理なものであることに対する批判が明確に打ち出されていたが、後刷り本では曆制・曆道批判はおろか曆そのものについてすら、一言も触れられていない。

また、初版本には神山仙庵の肉筆署名と寿時の印が捺印され、仙庵の筆によると思われる多くの注記が認められることから、昌益の一番弟子で八戸藩医の神山仙庵寿時（1723～1783）がかつて所蔵していたと、考えられる。

以上のことから、自然真道3巻は昌益の思想が最も忠実に表れ、史料価値が極めて高いと評価され、県重宝に指定された。

東京と青森 667号。 東京青森人会 2023年11月号。